



第 1 日

国 語

(9 : 30 ~ 10 : 20)

注 意

- 1 検査開始のチャイムがなるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙は表紙を入れて6ページあり、問題は一から三まであります。これとは別に解答用紙が1枚あります。
- 3 問題用紙と解答用紙に受検番号を書きなさい。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

受検番号	第 番
------	-----

— 次の文章には、わたし（なつき）と弟のよしひろが、ばあちゃん（梅子）の家で夏休みを過ごしているときのことが描かれています。この文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

「ばあちゃんは、なんでもぐるん?」「結局は好きなんだろな。海が好きで好きで、呼んだこと気がする。海のこと考えてるときがいちばん楽しいし、元気でもぐりつけられる自分が好きだしな。」たつた一合のお酒で、ばあちゃんの浅黒い肌はすっかりほてっていた。

——自分が好き。ときどき自分がきらいになるわたしは、そういうきるばあちゃんがまぶしくて、目を a 。「いやなことやつらいことが少々あってもな、海にもぐつたらすーとなんもかんも水に流れてしまうんよ。ストレースたらゆうもん、ばあちゃんには縁なしだわ。」え、ストレスのこと? 好んで口にするわりには、ばあちゃんの英語はいつもどこかおかしい。だけどあんまり自信満々なものだから、逆にこつちのほうがまちがつてるかもと不安になつてしまふ。

「お、そうだ。去年、ばあちゃん、テレビでたよ。」「うつそお。」あこがれてはいるけれど、^① 実際にテレビでた人なんて、わたしのまわりにはだれもいない。一度友達の家で、バレエの発表会のビデオを見せてもらったことがあつたけど、あれはおばさんが^② 摄ったホームビデオだ。「ビデオ見るか?」「見る、見る。」すつかり興奮したよしひろが、リモコンをとりに走った。『夏音の町に、海女たちのシーズンがやつてまいりました。』ナレーションがはじまり、画面いっぱいに、いまでは

すっかり見なれた夏音港の風景がうつしだされた。わたしはぐくりとつばをのみこんだ。『山崎梅子さん八十歳は、今朝も十キロの荷を背に、海へとむかいます。』「ばあちゃんじゃあ。」よしひろは目を白黒させながら、となりにすわっている实物と画面のばあちゃんとを見比べた。「ばあちゃんつて、八十年も前に生まれたんか。すげえ大昔じやが。なあなあ、そのころつて恐竜おつた?」「恐竜はおらんかつたけど、ちよんまげゆつたお侍さんはおつたで。」ばあちゃんはしゃらつとした顔でよしひろをからかう。一緒に暮らしてみてわかつたけれど、ばあちゃんつてけつこうおちゃめなんだ。「すっげえ。ちゃんとばらしどつた?」b よしひろのにぎやかなおしゃべりで、ナレーションが聞こえない。「もう、うるさい。しつ!」「わかりましたよお。」

わたしは画面にくぎづけだ。いよいよウエットスーツに身を固めたばあちゃんが、海にどびこむ。ばあちゃんの話から想像するだけだった海の中の景色が、画面いっぱいに広がつた。部屋全体が青くそまる。そつか、ばあちゃんがいつも見てる海の中つて、こんな景色なんだ。自分がもぐつてるわけじゃないのに息が苦しくなつて、わたしはハフハフといそがしく息をすつた。海の中の映像は美しく、まるでばあちゃんと一緒に青い海の底深くもぐつていくような錯覚に、わたしの胸はおどつた。水中に身をしづめたとたん、ばあちゃんの曲がつていた腰がすつとのびた。まるで魔法だ。足ヒレをゆつくりと動かしながら、海の底へとむかっていく姿は人魚のように優雅で、陸の上のばあちゃんからはまるで想像がつかなかつた。海の中のほうが、ばあちゃんはずつとのびやかで、

ずっと自由に見えた。『今日の④獲物』はアワビです。海の底の岩場にて
てきたアワビは、身の危険を感じるとすぐにはりついてとれなくなるの
で、気づかれないよう後ろからそつと近づきます。』¹ ばあちゃんの胸
の鼓動が画面をとおして聞こえてくるようだ。次の瞬間、ねらいすま
した一点にすばやく道具がうちおろされ、大きなアワビはばあちゃんの
手の中にあつた。「すつゞーい。」思わず声にでた。「うん。あれは大物
だつたな。」ばあちゃんの鼻の穴がふくらんだ。

『手に持てるだけのアワビをとると、山崎さんはいつたん海面にあが
ります。決して無理はしません。こうして二時間の漁のあいだ、五十回
も素もぐりをくりかえすのです。』初めて夏音にきた日、ばあちゃんが
たべさせてくれたアワビは、こうしてとつたもんだつたんだ。あのとき
は緊張していく味がよくわからなかつたけれど、もつとよく味わつてた
べればよかつた。ビヨー。ばあちゃんの機笛^{いそぶえ}が海面にひびいた。^{すうわ}数羽の
カモメがにぎやかに鳴きかわしながら、おけのまわりをとびかつていた。

(八束澄子 「海で見つけたこと」による。)

(注) 機笛 = 海女が水中での作業を終え浮上したときつく息。口笛
のように聞こえる。

1 ①~④の漢字の読みを書きなさい。

2 □ a あてはまる最も適切な語句を、次のアーチの中から選び、
その記号を書きなさい。

ア そらした イ まわした ウ こらした エ 光らした

3

b

にあてはまる最も適切な表現を、次のアーチの中から
選び、その記号を書きなさい。

ア やつとおちついた イ とうとうあきらめた
ウ すぐににせられる エ いつもうたがわれる

4 1 ばあちゃんの胸の鼓動が画面をとおして聞こえてくるようだとあ
るが、そのようにわたしが感じたのは、このときのばあちゃんの気持ち
をどのようなものと想像していたからだと考えられますか。次のア
ーチの中から最も適切なものを選び、その記号を書きなさい。

ア 自信と余裕 イ 焦燥と当惑 ウ 繁張と期待

エ 感動と安心

5 ビデオを見ているときにはばあちゃんは誇らしげな表情をしました。
その表情が描かれている部分を、文章中から十字以内で抜き出して書
きなさい。

6 次の文章は、第六段落におけるわたしの気持ちについて述べたもの
です。空欄I・IIにあてはまる適切な表現を、空欄Iは三十五字以内、
空欄IIは十字内でそれぞれ書きなさい。

初めて夏音にきた日のことを思い出し、わたしは() I

() という後悔を感じている。それは、美しい海の中をまるで()

II) 姿でもぐつていき、アワビを巧みにとるばあちゃんの様子や、
二時間のあいだ五十分も素もぐりをくりかえすことをビデオで知り、
ばあちゃんへの理解が深まったことから生じた気持ちである。

二 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

「学ぶ」つて、いつたいどういうことだ？ 赤ん坊を頭に思い浮かべてみてほしい。ようやくアル①き出した頃だから、満一歳過ぎぐらいの子としよう。あるときおばあちゃんの家にママやパパと出かけた。この子は、生後しばらくこの家にいたことはあるのだが、そのときの記憶はおそらくないから実質的にはじめて訪れた家になる。しばらく、この赤ん坊になつたつもりで、この子の経験することを考えてみてほしい。

この子はたぶん、家中をうろちょろするだろう。すると、自分の家とずいぶん違うということにすぐ気がつくに違いない。生活の習慣も、今までとはまつたく違っている。きっととまどうことがいっぱいある。たとえばご飯を食べるとき、自分のうちではパパとママはテーブルで椅子に腰掛け食べているのに、おばあちゃんの家では低い大きな座卓にみんなで輪になつて座つて食べる。こんな風景ははじめて見るものだ。お風呂も全然違っている。木の浴槽で、くらい感じがして少し怖かつたんだろうと思う。この家には猫がいて、すぐ足下によつてくるという体験もはじめてだ。もちろん本物の猫は見たことがなく、何だろうと思つて近づいたら、急にはげしく動いたのでびっくりした。それから怖くなつて近づかなくなつた。

こうした体験を、この子はミジカ②い期間にたくさんするだろう。ここでこの子は、じつに多くのことを「学んで」いることが分かる。食事というものは高いテーブルがあつて椅子に座つて食べるものだという「知

識」を、この子はすでに持つていたはずだ。この子の家ではそれしかなかつたのだから。a それとはまったく異なる風景を見せられる。

しばらくすると、おそらくこの子は自分の「知識」を修正せざるをえなくなるだろう。食事は椅子だけでなく床に座つて食べることもある。こういう「知識」をこの子は付け加えるをえなくなる。風呂についても同じ。猫をはじめて見たのだが、1 そのときの体験で、猫は怖い動物だという「知識」をつくりだしたカノウ性がある。

このように、新しく体験したことがそれまでの自分の「知識」と矛盾するような場合、あるいは体験がなくてその事態や物事についての「知識」がない場合、人は新しい体験とそれまでの「知識」がb しなくてすむように、自分の「知識」のほうを修正して両者を両立させるような新たな「知識」をつくりあげたり、新しい体験から自分なりに納得のいく新しい「知識」をつくりだしたりする。これは「知識」が高次に変容したこと、あるいは新たな「知識」が創造されたことを意味している。

こうしたプロセス、つまり、何らかの体験をしたときに、その体験を理解し了解できるように、それまで持つていた自分の「知識」を修正し、その体験をも含めて理解できるように発展させて新たな「知識」をつくりあげたり、未知のことを体験し、その体験を何らかのかたちで総括し、教訓を導いて、c たりすること、これを「学ぶ」と言つているのだ。名詞形が「学び」。簡単に言うと、「学び」とは体験から何らかの新しい「知識」を導き出す心身の営みのことを言う。

「学び」のプロセスは、何らかの感情の動きを伴つていて。たとえば、

新しい事態を以前の「知識」で理解できないでいたときに誰かから説明を受け、なるほどそうだったのかと納得し、それを取り込んで新しい「知識」を自分の中につくるとき、その人は（小さな）感動という感情を体験するはずだ。自分で調べて発見して納得し、新しい「知識」を自前で

つくるときも、感情の大きな動きを体験する。やつたあ！ というのに似た感情だ。だから「学び」というのは、静的で冷たい心の働きではなく、動的情的な、人間にとつてとてももうれしい営みになるはずだ。

私たちは日常、たえずこのような「学び」を経験していると言えよう。ちよつとした体験から、私たちは「こういう場合は○○したらシッパイする」というような「知識」を日頃勝手に導き出したりしているからだ。こうした場合でも「学び」がおこなわれていることになる。「学び」にはある種の感動が伴うものであるということをふまえると、同じ「学び」にも浅い深いがあると考えたほうが適切だろう。「学び」が深いほど、感動が大きい。あるいは、「学び」が深ければ深いほど、心身に新しいものが付け加わる度合いが大きく、行動までもがそれによつて変化することがある、ということだ。

（汐見稔幸 「『学び』の場はどこにあるのか」による。）

(注) プロセス II 過程。

- 1 a ①～④ のカタカナにあたる漢字を書きなさい。
- 2 b にあてはまる最も適切な語を、次のア～エの中から選び、

その記号を書きなさい。

ア つまり イ または ウ たとえば エ ところが

3 b にあてはまる最も適切な語を、第五段落の中から抜き出して書きなさい。

4 c にあてはまる最も適切な表現を、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 自分なりに納得のいく「知識」をつくりあげ

イ 自分なりに納得のいく「知識」をつくりだし

ウ 他者を説得するための「知識」をつくりあげ

エ 他者を説得するための「知識」をつくりだし

5 1 そのときの体験 とあるが、具体的にはどのような体験ですか。二

十五字以内で書きなさい。

6 次の表は、この文章をI～IIIの三つのまとまりに分け、それぞれについて小見出しをつけ要点をまとめたものです。この表のIIにあたる段落をすべて書きなさい。また、空欄dにあてはまるIIIの要点を、三十五字以内で書きなさい。

まとまり	小見出し	要 点
I	赤ん坊の体験の意味	赤ん坊はさまざまな体験を通して多く
II	「学ぶ」の定義	のことを「学んで」いる。
III	「学び」と感動との関係	「学ぶ」とは体験から新しい「知識」を導き出すプロセスのことである。

三 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

孔子曰はく、

「古之学者為^ハ己^{タシ}、今之学者為^ハ人^{ヒト}。」

書き下し文

(「古の学者は己の為にし、今の学者は a。」)

己のためにはすことは、我が身を修めんためにする実学なり。人のためにはすとは、人に知られんがためにする名利の学なり。¹学問の本意は、己^ハが身を修めんためなれば、人の知ると知らざるとにかかはらず、たとへば、食する者の我が飢ゑをやめ、身を養はんためにする。²がごとし。ただ我が腹にみちなんことをのみ思ひて、さらに我が食したるをに知らせんと願ふ心なし。

(「大和俗訓」による。)

(注) 学者 = 学問をする人。 実学 = 本当の学問。

名利 = 名誉と利益。 本意 = 本来の目的。

みちなんこと = いっぱいになること。 さらに = 少しも。

1 a にあてはまる適切な語句を書きなさい。

2 b にあてはまる最も適切な語を、文章中から一字で抜き出し

て書きなさい。

3 1 かかはらず を、現代かなづかいで書きなさい。

4 身を養はんためにする にあるが、ここで身を養うために具体的に
するは何ですか。漢字二字で書きなさい。

5 この文章において、筆者は、「古の学者」と「今の学者」の学問の
目的にはどのような違いがあると述べていますか。現代の言葉で、六
十字以内で書きなさい。